

# 千葉県の災害復興を支える建設業

## 3.11東日本大震災

平成23年3月11日午後2時46分に発生した「東日本大震災」。震源に近い東北地方はもちろんのこと、千葉県でも、液状化現象や津波で大きな被害がありました。当時の自衛隊や消防の活躍はよく知られていますが、実は、地域の建設企業も、大変大きな役割を果たしています。たとえは、救急や物資の輸送のための道路を通るようにはした、地域の建設企業も、大変大きな役割を果たしています。被災地の復興・復興を支えた建設業の活躍は、地域に伝わり、復興の力となつていくでしょう。



津波が押し寄せた千葉県浦安市の海岸沿いの風景

### 液状化現象

地震によって、水を含む砂地や埋立地など、液状化現象が起る。液状化現象が起ると、建物の土台が傾いたり、マンホールなどが地下から浮き上がるなど、被害が各地で発生しました。千葉県内では、東京湾沿岸や利根川流域の地盤（ライライン）に

大きな被害をもたらした。埋立地が被災する浦安市では、被害が全国でも特に集中しました。市の面積全体の86パーセントで発生し、被害家屋は87,000棟、全国の被害家屋数の約2万7,000棟の3分の1を占めたほどでした。また、道路などを埋め尽くした噴砂は7万5,000立方メートル（小学校



液状化現象で、公園の貯水タンクが浮き上がっている（浦安市提供）



がれきでいっぱいになった道路（旭市提供）

### 津波

東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸に、高いところでも9.3メートル以上の波が押し寄せました。これは、3階建てのビルと同じくらいの高さです。千葉県でも、震災発生から約30分後には第1波が押し寄せ、津波の高さは最大2.5メートルになりました。



### 道路



液状化現象で大量の土砂が噴出し、通行できなくなった道路（千葉市提供）

生活を支える上で、人々にとって大切な「血管」ともいわれる道路は、わたしたちの生活を支える上で、人々にとって大切な「血管」ともいわれる。千葉県には、約1万キロメートルの道路があります。そのうち、約1万キロメートルの道路が、震災で被害を受けました。道路が壊れると、消防車や救急車が、すばやく駆けつけられず、被害が拡大してしまいます。また、生活に関わる品々を運ぶこともできず、まちの商店に品物を補充することも難しくなってしまうでしょう。



道路復旧作業は夜間も行われた（船橋市提供）

が不足してしまいました。そこで、地元建設企業が、急ぎ自分たちの会社の敷地を提供して、仮設住宅を建てました。液状化被害の大きかった千葉県浦安市では、小学校のプール500杯分（約18万立方メートル）の土砂が撤去された。地元建設企業は、主要道路の復旧作業に三日月休まず作業にあたり、震災翌日には、路線バスが走るようになりました。

### 住宅



仮設住宅の建設も進められた（千葉市提供）

床上、床下浸水、火災なども合わせると5万8,440棟が被害を受け、多くの人が住むところを失いました。住む家を失った人々は、震災後しばらくの間、仮設住宅や公民館などに避難し、不便な非難生活を送っていました。平成24年の年末の段階でも、400人以上の方が、自宅に戻れずいます。



仮設住宅を建設する様子（千葉市提供）



上：地割れが起きた堤防。下：緊急災害復旧作業後、利根川下流河川事務所提供



上：震災直後に崩壊した小野川堤防。下：小野川堤防復旧工事の様子（香取市提供）



上：震災直後に崩壊した小野川堤防。下：小野川堤防復旧工事の様子（香取市提供）



地割れを起こした公園（千葉県建設推進協議会提供）



震災で傾き、倒壊寸前の電柱（浦安市提供）

### 電気

暮らしを支える電気。身のまわりで、電気で動いているものも考えてみましょう。家の中だと、照明、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなど、生活に欠かせない家電が、電気で動いています。また、道路の信号や、街灯、病院や工場などの照明や機械など、たくさんの施設や設備が電気で動いています。このように、ふだんよく目にするものばかりに、大きな被害がもたらされています。

動いているものも考えてみましょう。家の中だと、照明、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、エアコンなど、生活に欠かせない家電が、電気で動いています。また、道路の信号や、街灯、病院や工場などの照明や機械など、たくさんの施設や設備が電気で動いています。このように、ふだんよく目にするものばかりに、大きな被害がもたらされています。

「電力の最終ランナー」である電力事業者は、震災発生から約1時間後、千葉県内の電力供給を再開しました。電力事業者は、震災発生から約1時間後、千葉県内の電力供給を再開しました。電力事業者は、震災発生から約1時間後、千葉県内の電力供給を再開しました。

電力事業者は、震災発生から約1時間後、千葉県内の電力供給を再開しました。

### 河川

千葉県を流れる河川は、主なものだけで200以上、長さを含めると約16,000キロメートルあります。震災では、100か所以上の堤防などが被害を受けました。利根川の堤防が、千葉県を流れる河川

面積日本一の川、利根川。利根川堤防では、全体の約14%（千葉県側16.7%、茨城県側10.9%）が今回の震災で大きな被害を受けました。利根川は古くから洪水の被害が多く、昭和22年には、堤防が決壊し、東京都葛飾区・江戸川区にまで及んだほどの「暴れ川」です。大雨になれば、地域を知り尽くして、利根川の護岸が大規模な

と、「自分たちの地域は自分たちが守る」という強い使命感に裏付けられた熱意と努力に報いるため、国土交通省は、震災発生から約1か月の間に、約100か所の建設現場に感謝状を贈呈しています。

液状化で崩壊、大切に保存されてきた佐原の町並みも大きな被害を受けました。しかし、余震のたびに、少しずつ、全体の復旧がすすんでいます。佐原の町並みも大きな被害を受けました。しかし、余震のたびに、少しずつ、全体の復旧がすすんでいます。

液状化で崩壊、大切に保存されてきた佐原の町並みも大きな被害を受けました。

### 公園

海岸の保安林や、まちの公園、街路樹は、みどり豊かなまちづくりの役割を担っています。震災発生から約1週間後、千葉県内の公園は、ほぼすべてが復旧しました。公園は、被災者の心を癒やす役割を担っています。

公園は、被災者の心を癒やす役割を担っています。